

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス			
教科目名	世界史	担当教員	水野延之(非常勤)
学年学科	1 年 A・C・D 科	通年	必修 2 単位
学習・教育目標	(A-1) 100%	JABEE 基準 1 (1) (a) 50%、(f) 50%	
授業の目標と期待される効果： 『愚者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ』 『愛の反対は憎しみではなく無関心』 歴史を学ぶ目的は、現代社会(=無数の他者から成る世界)について関心をもち、知識と理解と深めることにある。 よって、この授業の目標を以下に定める。 1. 近現代(主に 17 世紀以降)の世界史を学ぶ。 2. 歴史用語の暗記に留まることなく、歴史の大きな流れ(因果関係)を論理的に説明する能力を習得する。 3. 現代の多様な国家・民族・文化および価値観について関心と理解を深める。		成績評価の方法： 以下の総得点 500 点に占める得点率で最終評価を行なう。 前期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 50 点 後期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点＋課題提出 50 点 達成度評価の基準： 以下の各要素についての達成度を成績評価の基準とする。 1. 世界史の正確な知識を得たか。 2. 歴史の因果関係を論理的に説明する能力が身についたか。 3. 多様な文化や価値観への関心・理解が深まったか。	
授業の進め方とアドバイス： 教科書・資料集・プリントを用いた講義形式で行なう。具体的なアドバイスは次の通り。 (1)予習・復習は大切 (2)受講者の疑問に即して授業を進める(だからどんどん発言しよう) (3)毎日ニュースをチェックして時事問題を知る			
教科書および参考書： 『詳説世界史』(山川出版社)を教科書とし、『最新世界史図表タペストリー』(帝国書院)を副教材として使用する。その他、必要に応じてプリント等を配布する。また、関連する書籍や映画を紹介するのでできるだけ触れてほしい。			
授業の概要と予定：前期		AL のレベル	
第 1 回：イントロダクション			
第 2 回：ヨーロッパ世界の拡大、ヨーロッパ諸国の海外進出			
第 3 回：ルネサンスと宗教改革、主権国家体制の形成			
第 4 回：重商主義と啓蒙専制主義			
第 5 回：科学革命と近代的世界観			
第 6 回：産業革命			
第 7 回：アメリカ独立革命			
第 8 回：中間試験			
第 9 回：フランス革命とナポレオン			
第 10 回：ウィーン体制、ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生			
第 11 回：南北アメリカの発展			
第 12 回：オスマン帝国支配と西アジア地域			
第 13 回：南アジア・東南アジアの植民地化			
第 14 回：清朝の動揺とヨーロッパの進出			
期末試験			
第 15 回：日本の開国と明治維新			

授業の概要と予定：後期	AL のレベル
第16回：帝国主義と欧米列強の展開	
第17回：アジア諸国の改革とアジア・アフリカ地域の民族運動	
第18回：第一次世界大戦とロシア革命	
第19回：ヴェルサイユ体制	
第20回：世界恐慌とファシズム	
第21回：第二次世界大戦	
第22回：戦後世界秩序の形成とアジア諸国の独立	
第23回：中間試験	
第24回：米ソ冷戦と西欧・日本の経済復興	
第25回：第三世界の台頭と米ソの歩み寄り	
第26回：石油危機と世界経済の再編	
第27回：社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展	
第28回：途上国の民主化と独裁政権の動揺	
第29回：地域紛争の激化と深刻化する貧困	
期末試験	
第30回：現代文明の諸相—科学技術、情報技術革命と生命科学、環境保護、思想と文化	

評価 (ルーブリック)

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
1	世界史の知識に関する問題を正確に答えられる(8割以上)	世界史の知識に関する問題をおおよそ正確に答えられる(6割程度)	世界史の知識に関する問題をほとんど正確に答えられない
2	歴史の因果関係を十分説明できる(8割程度)	歴史の因果関係をやや説明できる(6割程度)	歴史の因果関係のごく一部しか説明できない
3	多様な文化・価値観に対して、深い関心と理解をもつ	多様な文化・価値観に対して、やや関心と理解をもつ	多様な文化・価値観に対して、ほとんど関心と理解をもたない